ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会 News
（152）
2023年12月1日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
http://www.luther.ac.jp/
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL：0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

イエスさまは旅の途中で、お生まれになりました。偉い人からの命令で、人々は、住民登録をするために、それぞれ自分の町へ旅立ったのです。

人は自分で生まれる場所を選ぶことができません。けれど住む場所を選ぶことはできるはずです。だが思わぬ事故や災害、さまざまな迫害や戦争などによって、人は住む場所を失うことがあります。今も戦いは世界で続いています。

高い壁や鉄条網に囲われた狭い場所に押し込められて、銃や戦車に阻まれて身動きできない人たちがいます。この人たちは、毎日毎晩、いつ飛んでくるかもしれない、ミサイルに怯えながら暮らしています。

イエスさまがお生まれになった時も、きっと大変な混乱があったと思います。大勢の人たちが同時に旅していたのです。充分な食べ物も飲み物もない。寝る場所もない。多くの人のくらしがむずかしい中で、み子はお生まれになります。みんながすべてを分け合って寄り添いながら生きなければ、生まれたばかりの飼い葉桶に寝かされた、貧しい乳飲み子は生きていけません。おさな子を世界の救い主として与えられた、父なる神の恵みに感謝します。

主の天使が喜びの報せを一番に報せたのは、野宿をして夜通し羊の番をする、羊飼いたちでした。そこに天使と共に現れた天の大軍は、戦闘ではなく神を賛美して、祝福しながら地を離れます。

「いと高き所には栄光、神にあれ、
地には平和、御心に
適う人にあれ。」

世界が混乱する今年のクリスマス、私たちの故郷であるキャンパスに戻って、主の誕生を祝います。そしてなつかしいチャペルに入り、神さまを賛美し、喜びの報せを持ち帰り、人々に告げましょう。ハレルヤ

ルカによる福音書 2：12

あなたがたは、産着にくるまって飼い葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。

日本ルーテル教団
池上ルーテル教会・杉並聖真ルーテル教会
牧師 **北川 逸英**

一日神学校に参加して

J藤が丘教会 **清野 智佳子**

ある人は我が子を託したキャンパスとして、ある人は神の働き人を培う場として、またある人は恩師や懐かしい輩との再会の機会として、毎年この日に三鷹の神学校に集ってきました。オルガンの響きに引き寄せられるように祈りの席につき、声を合わせて主を讃美し、愛の挨拶を交わし、み言葉の解き明かしを穏やかな心で聴く。聖歌隊の清々しい歌声に促されて聖餐へ招かれ、祝福に与る。四十数年前の「一日神学校」で、無智蒙昧だった己の感じたものと変わることのない、開会礼拝の厳かさがありました。まさしく、主に整えられたサービスなのです。

この日は、東京老人ホームとベタニアホームの歴史と、施設の責務を負った担い手の揺るがない信仰と従順、ディアコニアの尊さについて拝聴しました。疫禍に遮られた時を超え、百年前の関東大震災へ旅するようなシンポジウムでした。工夫を凝らした品々がテーブルに載る、出店教会のミニショップも、敬愛する方々のお顔にまみえたことも、旧交を温めたひとときも、数か月にわたる、神学校・大学関係者・後援会の方々の細やかなご配慮と準備のおかげでもたらされたものでありました。

四年ぶりのリアルな「一日神学校」に多くの参加者を導き、それぞれの心に喜びを満たし信仰を増してくださった主に、ただ感謝するばかり。

また来年。

三遠地区世話人会
10月22日　J浜松教会

渡邉克博牧師、髙山由美子先生、小澤周司後援会会長、世話人の七名で行われました。神学校・大学の報告では通常の授業形態がとられていること、神学校の現状について話されました。世話人代表の太田三男さんから活動報告・計画が話され、各地区の世話人からも活動の様子が報告されました。会長からは「一日神学校」に多くの方が参加されたことや当日の動画の限定公開がされていること、ルーテル・リカレント講座の紹介がありました。

意見交換では各教会の献金の集め方や教会員や高校生への呼びかけ、魅力ある大学にしてほしいという要望などがあり有意義な時間となりました。

（J小鹿教会　芳賀 美江）

熊本地区世話人会
10月28日　J熊本教会

東京からルーテル学院大学の石居基夫学長を迎え、熊本地区教会の牧師、九州ルーテル学院と九州学院の教職員、世話人の十七名で行われました。

角本浩牧師の祈りで開会し、石居学長から今年度の取り組みとして、リカレント（学びなおし）講座に力を入れていること、奨学金の新制度も導入して学生の確保に努めていることが報告されました。

健軍教会で研修中の曽我純神学生の証しでは、祖父の農業を継ごうと『愛農学園』に入学し、そこでのキリスト教との出会いから牧師を志したことが話されました。

その後、大学の現状について石居学長よりさらに詳しい説明があり、魅力あるアピールとともに多くの人に三鷹の大学を見ていただくと良いなど活発な意見交換がなされ、小泉嗣牧師の祈りで閉会しました。

これからも後援会活動を通してルーテル学院大学と日本ルーテル神学校を支えてまいります。

（J健軍教会　白鳥 哲・奥野 眞知子）

私たちが応援しているルーテル学院生

荒井佳穂（あらいかほ）さん（臨床心理二年）は、公認心理師資格取得のための進路を考えていましたが、さまざまな学校の中でもスピリチュアル的視点での学びもできるルーテル学院を選びました。入学後も心理学に関する科目に関心を持ち、将来に備えて熱心に学んでいます。

手話サークル副部長としての活動も忙しい中、絵を描くことが好きな彼女は礼拝委員会広報班として、毎週、礼拝案内のポスターも描いています。

田中碧（たなかあおい）さん（福祉相談援助三年）は、社会福祉士の資格取得を目指してルーテル学院に入学しました。大学では積極的に地域のボランティア活動や海外研修にも参加し、どんどんと視野を広げる中で新しい発見を得ています。

また入学後に初めて触れたキリスト教にも関心を持ち、チャペルオルガニスト、チャプレンスタッフとして、キャンパスキリスト教センターの活動にも、元気よく参加しています。

鷲見和哉（すみかずや）さん（キリスト教人間学四年）は、かつては反発までしていたキリスト教で洗礼を受けた自分を見つめ、何故、信じるに至ったのかを探るためにキリスト教を学ぶようになりました。

現在は授業に加え、さまざまなキリスト教文学にも影響を受け、神学校への進学を考えています。学校や教会の礼拝にも熱心に通い、奉仕する日々を過ごしつつ、神様から与えられた使命について真摯に考えています。

曽我純（そがじゅん）さん（神学校三年）は聖書を基盤に据えた教育を行っている愛農学園農業高校（三重）で学び、そこでの体験が大きな影響を与えました。

ルーテル学院大学に入学し、三鷹教会で洗礼を受け、卒業と共に献身者としての道を選び神学校の門を叩きました。8月中旬からは健軍教会と関連施設で宣教研修を行っています（指導は安井宣生牧師）。熊本の地で、日本福音ルーテル教会の歴史を学ぶ良い機会ともなることでしょう。

ネルソン・デーヴィッドさん（神学校四年）の父親は日本福音ルーテル教会で長年ご奉仕くださった米国の宣教師でした。ですから日本で生まれ育ちました。母国の大学で学び弁護士の資格を取得した後も、日本を拠点にして働きました。本郷学生センターのバイブルクラスも担当してきましたが、本業の仕事が一区切りついたこともあり、第二の人生を日本の地での宣教に献げる決意をされました。

卒論提出を終えた後には、年明けの教師試験に備えることになります。

『学生スピーチ・証し集』
ご紹介した五名の学生のスピーチを冊子にして、一月初旬にJELC・NRK教会と世話人様にお届けいたします。お楽しみに！

クリスマスの喜びを大学・神学校へ

2023年度 募金目標額
2,500万円

ルーテル学院への献金は寄付金控除が受けられます。
税額控除の場合、10万円の献金で約4万円の所得税が還付されます（要確定申告）。